MKBT
IRAI OUKA ASEBALL EAM
進化無限
発行:美来工科高等学校 硬式野球部
2026(令和8年)11月16日 月曜日
Where there is a will,there is a MIRAI.

1年生中央大会 美来工科初優勝!!

魂の116球完封 長濱進太朗

ついに頂点へたどり着いた。第51回沖縄県高等学校野球1年生中央大会決勝で、美来工科が宜野座を3対0で下し、悲願の初優勝を達成した。六回に川満零生(電④三)の打球で均衡を破ると、我如古琉久(機⑤左)の適時三塁打で追加点。投げては先発・長濱進太朗(電)が九回3安打7奪三振の完封勝利。予選から八戦全勝で県内一年生の頂点に立った。



頂点を懸けたマウンドで圧巻の完封劇。長濱進太朗が魂の粘投で、美来工科を県王者へ導いた。

エース覚醒!

優勝のマウンドに立っていたのは背番号10だった。九回116球の初完封勝利!

最も苦しかったのは九回裏。無死一・二塁と一打同点のピンチ。それでも長濱は冷静だった。後続を見逃し三振、一ゴロ、ファウルチップ三振に打ち取り得点を許さない。最後のアウトが記録された瞬間、歓喜の輪の中心にはエースの姿があった。

一年生中央大会を制した原動力。それは、最後まで腕を振り続けた長濱の強い気持ちだった。

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
美来工科	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	5	0
宜野座	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3

勝負を決めた一撃!センター突破の三塁打



我如古 琉久

試合の均衡を破った直後だった。

六回二死二塁。打席に入った我如古琉久は初球を強振。打球はセンターを破り、その間に三塁へ到達するタイムリー三塁打となった。

この一打でリードは3点に拡大。ベンチの勢いをさらに加速させた。決勝戦で飛び出した値千金の長打は、優勝への流れを決定づける一撃となった。



優勝旗授与
主将:金城龍希(電)

主将コメント

「序盤の苦しい展開を全員で耐え、少ないチャンスを確実に得点につなげることができました。

最後のピンチでも落ち着いてアウトを重ね、自分たちの野球を貫けたことが優勝につながったと思います。」

11/15(日) 第51回 県高校野球一年生中央大会決勝vs宜野座高



■栄冠への軌跡■

美来工科が一年生世代の頂点に立った。

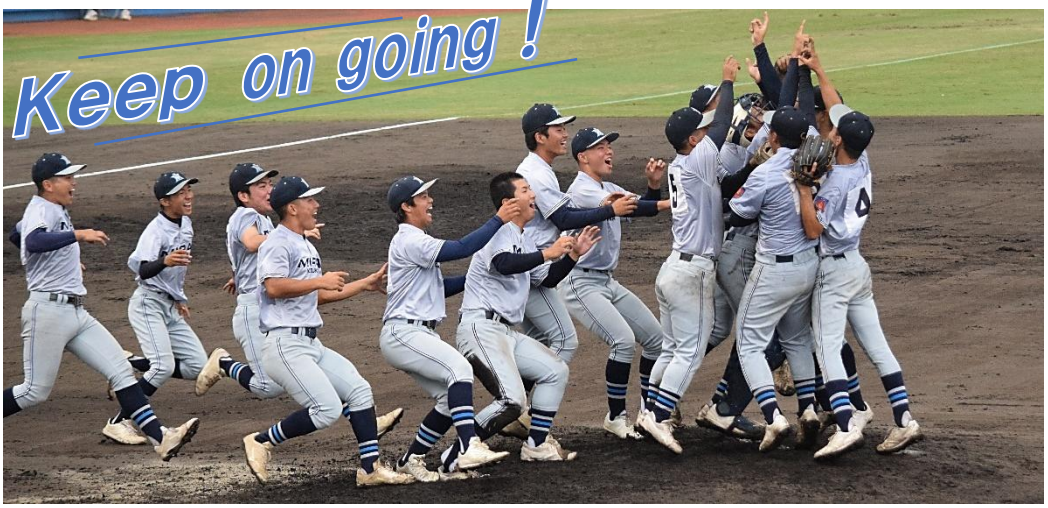
今大会の戦いを振り返ると、圧倒的な力で勝ち上がっただけではない。一戦ごとに壁を乗り越え、そのたびに選手たちが成長を遂げた結果の初優勝だった。

地区予選では初戦の前原高校戦で五回コールド勝ちを収めると、ウェルネスB、具志川高校にも快勝。四回戦ではウェルネスAを相手に1対0の接戦を制し、勝負強さを身につけながら中央大会進出を決めた。

中央大会でも勢いは止まらない。初戦の那覇高校戦では延長十一回タイブレークにもつれ込む激戦を8対4で制した。苦しい試合をものにした経験はチームをさらにたくましく成長させた。続く糸満高校戦は8対2、準決勝のエナジック高戦は7対6。強豪との競り合いを次々と制し、決勝の舞台へたどり着いた。そして迎えた決勝戦。相手は実力校の宜野座高校。投げては長濱進太朗が九回三安打無失点の快投を見せ、3対0の完封勝利で歓喜の瞬間を迎えた。

≪今大会、優勝への軌跡≫

11/16	中央大会	決勝	3−0	宜野座高校
11/15		準々決勝	7−6	エナジック高
11/9		ベスト8	8−2	糸満高校
11/8		ベスト16	8−4（延長11回TB）	那覇高校
10/31	地区予選	四回戦	1−0	ウェルネスA
10/24		三回戦	9−3	具志川高校
10/17		二回戦	10−3	ウェルネスB
10/12		一回戦	13−1（五回コールド）	前原高校



最後の打者を三振で仕留め初優勝の瞬間。マウンドへ駆け寄る美来工科ナイン＝撮影:ヂャン宮城(ｴﾅｼﾞｯｸｽﾀｼﾞｱﾑ名護)

今大会の美来工科は全八試合で59得点を挙げる攻撃力を見せる一方、接戦では粘り強さを発揮し、決勝では守り勝つ野球も体現した。打撃力、投手力、守備力、そして何より諦めない心。その全てがかみ合ったとき、チームは歴史を塗り替えた。

一年生たちの挑戦はここで終わらない。この初優勝はゴールではなく、新たな美来工科野球部の歴史が始まった瞬間である。
















3年の先輩方、遠くまでの応援、感謝です


試合が終わりリラックスムード


勝利のベースランニング!?


♪雲は湧き光あふれて～